

# 気管狭窄症の診断、治療のため当院に入院・通院されていた患者 さんの診療情報を用いた臨床研究に対するご協力をお願い

研究責任者 所属 小児外科 職名 部長  
氏名 畠山 理

実務責任者 所属 小児外科 職名 フェロー  
氏名 植松 綾乃  
連絡先電話番号 PHS 38085

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、畠山 理 までご連絡をお願いします。

## 1 対象となる方

西暦2012年2月1日より2021年9月30日までの間に、小児外科にて先天性気管狭窄症の診断、治療のため入院し、手術を受けた方。手術時の年齢が2歳までの方に限ります。

## 2 研究課題名

先天性気管狭窄症術後における high flow nasal cannula の有用性

## 3 研究実施機関

診療科・小児外科

(他に院外共同研究機関があれば記載のこと)

## 4 本研究の意義、目的、方法

先天性気管狭窄症の手術後は一定期間気管挿管、人工呼吸管理を行います。人工呼吸管理を離脱した後、呼吸障害や気道分泌物貯留によって再度気管挿管、人工呼吸管理を必要とする患者さんが一定数います。形成直後の気管に再度挿管を行う場合には、出血や気動損傷を起こす危険性があります。近年、様々な疾患の非侵襲的な呼吸管理手段として high flow nasal cannula (高流量鼻カニューラ) が用いられるようになり有用性が報告されています。我々は2017年より先天性気管狭窄症術後、人工呼吸管理を離脱した後の呼吸管理手段として high flow nasal cannula を用いてきました。本研究ではその効果を検証したいと考えます。high flow nasal cannula 導入前後で2群に分け、主要評価項目を再挿管の有無、副次評価項目を呼吸機能評価、high flow nasal cannula による合併症、PICU 滞在期間として比較検討します。先天性気管狭窄症術後の呼吸管理に定まった方法はなく、本

研究によって high flow nasal cannula の有用性が示された場合は有用な情報となります。

## 5 協力をお願いする内容

診療録の閲覧

## 6 本研究の実施期間

西暦 2021年10月1日～ 2022年5月31日（予定）

## 7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に【または倫理委員会に承認された破棄時点で】完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切開示いたしません。

## 8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

小児外科 フェロー 植松 綾乃 PHS 38085

以上